

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500238		
法人名	社会福祉法人 つつじ会		
事業所名	グループホーム まえさわ苑折居館		
所在地	〒029-4201 岩手県奥州市前沢古城字北館21-1		
自己評価作成日	令和2年7月7日	評価結果市町村受理日	令和2年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人とゆっくり向き合う時間を大切に、信頼関係を築く事ができるよう取り組んでいます。職員の入れ替わりをできるだけ少なくする事で、馴染みの関係を作り、お互いが一緒に生活をしているという実感を得られるよう心掛けています。季節に合わせた行事の企画の他、日常的に行なう余暇活動にも力を入れ、製作活動、散歩、外出、体操等を積極的に取り組んでおり、充実した生活の中で、いきいきと過ごしていただけるよう支援しています。利用者の方々自ら、意欲的に取り組む姿が見られるようになっており、職員もやりがいを感じているところです。特養と併設しており、利用者同士の交流を行なっています。グループホームだけの枠にとらわれず、多くの方々と触れ合う機会を持つよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道4号線沿いの住宅や水田に囲まれた地域に同一法人が立地する地域密着型介護老人福祉施設(特養)の2階の1ユニット(10人)に隣接して平成24年に開設された。3カ所の特養、デイサービス、短期入所生活介護事業所等を運営する法人では、毎年度、各施設毎に運営やケアの重点目標を定め、各種の会議や委員会を通じて、法人全体で介護サービスの充実に努めている。当事業所では、ケアの実践目標に“利用者の自尊心と潜在能力を引き出すケア”を掲げ、一人一人に丁寧に向き合い、好きなこと、やりたいことを把握し、日々の生活に活かすよう働き掛けている。自分の楽しみや役割を見出し、意欲的、積極的になってきている利用者もあり、職員の支援にも力が入っている。コロナ禍で家族や地域との交流が減っており、思うような外出も出来ない状況の中で、職員は、利用者に精神面での不安やストレスが生じないよう配慮しながら支援に当たっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議で施設理念を唱和し、振り返りを行なっています。また、理念をもとにグループホーム独自の目標を4ヶ月毎に設定し、対策を立て評価を行なっています。	法人の施設理念をもとにホームの生活目標を「ゆっくり・一緒に・楽しく」と定め、毎年度3期に分け、4ヶ月毎に実践する目標と対策を職員で話し合い、実践結果の評価・反省を加えながら、計画的にケアサービスの充実を図るよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の敬老会やイベントに毎年参加するようにしています。事業所の備品の貸し出しや、ホール使用の呼びかけを行い、地域とのつながりを意識して取り組んでいます。	感染予防のため、お祭りや花火大会など多くの地域行事が中止になっており、地域や地元の人達と交流することが例年通り出来ない状況にある。ホームの夏祭りも利用者と職員だけで実施した。JA女性部のハンドマッサージや中学生のボランティア活動での来訪も自粛してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の実習、一般の方の職場体験の受け入れを行ない、グループホームの生活、利用者の方についての理解を深めてもらえるよう取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事活動や、運営状況を説明したり、介護に関する映画の上映会を実施するなどし、理解を深めていただけるよう取り組んでいます。行事への参加により、利用者や職員の様子を見ていただくようにしています。	3月、5月の推進会議は、ホーム運営の報告や計画について、資料を送付し、意見等を返送いただく書面開催となった。委員からは、感染予防を徹底しながらも、自然との触れ合い等外出の機会を確保すること、家族等との面会を工夫することなどの意見が寄せられた。感染状況を見ながら、メンバー参集による会議を復活したいとしている。	地域との繋がりをより深めるため、地域活動の中心になっている行政区や老人クラブの代表、民生児童委員などをメンバーに加え、推進会議を一層活性化させることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいた際に、相談、連絡を行なっています。その他のところでは、グループホームとの直接的なやり取りはないですが、法人としては常に連携を図りながら運営をすすめています。	運営推進会議への出席以外は、市の担当課とは、日常的に法人事務局が対応しており、ホームが担当者と交流することは多くないが、行政情報は、事務局が正確に伝えてくれる。また、市主催の介護関係の会議や研修会に参加している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在目に見える身体拘束は行われていません。スピーチロック等に気をつけながら利用者と接しています。身体拘束廃止委員が毎月法人内で行なわれる会議に参加し、会議内容を職員に周知しています。アンケートによる意識調査を実施し、職員それぞれの考え方、利用者との接し方について再確認するようにしています。	毎月開催される法人の「身体拘束適正化委員会」にメンバー職員が出席し、職員会議で報告している。委員会では、定期的に研修会を実施するとともに、アンケートにより身体拘束に関する職員の意識調査を継続的に行い、ベッド柵の使用の是非やスピーチロック等への職員の考え方を確認しながら、身体拘束に繋がらないケアに法人全体で積極的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の中で、虐待に関する資料をもとに勉強会を行ない、グループホーム会議の中で内容を周知しています。自分自身を見つめ直したり、虐待者にならない為にはどうしたら良いかという内容で話し合いを行なっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修資料に目を通す等し、職員一人一人が必要な知識として、認識するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の説明を十分に行ない、同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望があった場合、改善事項は速やかに対応できるよう、上司への報告、または会議での検討を行なうよう取り組んでいます。	法人で「家族会」を組織し、年度初めに総会を開催し、法人の運営の考え方を説明し、家族の意見を伺っている。ホームからは2名程度の家族が出席している。家族の面会を自粛してもらっており、生活の様子をお便りで知らせるようにしている。面会の要望が多く、7月からは、玄関のガラス戸越しに顔を見ながら携帯等で会話をしてもらっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案は、会議に限らず業務中でも常に出してもらいようにし、検討するよう取り組んでいます。	毎週月曜日に同棟の特養の管理者も兼ねる拠点総括の施設長に出席してもらい、ホームの運営等について職員と率直な意見交換を行う機会を作っている。また、管理者は、日常の業務の中で職員から出された意見はその場で話し合うようにしており、月1回の職員会議では、実践目標の取り組み状況を確認しながら、改善提案を聴取し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の実績は、人事考課による評価を行なっています。有給休暇の取得状況を把握し、取得に向けての呼びかけを行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は定期的に行なわれていますが、外部への研修は少ない状況です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の場では、出来る限り情報交換を行なうよう心掛けていますが、その他の交流はほとんどない状況です。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接での情報をもとに、職員間で対応方法を話し合い、新しい環境にできるだけ早く慣れてもらえるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や契約時の話し合いの中で、できるだけ細かく状況を伝えて頂くようにし、要望や悩み等についても解決に向けた方法を検討するようになっています。		

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接により、優先される課題は何かという事を考え、ケアプランを立てて取り組んでいます。その課題に限らず、入所時は特に職員間の情報共有を密にし、必要な支援を見出すようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事的な作業や行事の準備等、利用者それぞれの状態に合わせて、出来る事を一緒に行ってもらいます。声掛けや説明なしでも、自ら率先して取り組む方も多く、利用者間で役割分担ができてきている場面も見られます。毎日の作業でも、必ず利用者に感謝の言葉を伝えるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出、外泊、通院対応等を行っていたり、行事への参加、面会を勧める事により、交流を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人の方々に会いに来ていただけるような声掛け、地域行事への参加等により、交流を支援しています。自宅の様子を見に行き、近隣の方と言葉を交わしたりする事もあります。	面会制限により親戚や知人の来訪が遠のいている。定期的に通っている美容院に行けなくなり、髪を染めたり、おしゃれが出来なくなっている利用者もいる。半面、電話でのやり取りが増え、繋がりが深まっている人も見られる。ドライブでは、自宅周辺を訪ね、付近を周遊してもらっている。隣の特養に新聞を借りに行く利用者があり、特養の利用者と馴染みの関係が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係を保てるよう、性格や相性、認知機能の状態等を把握し、食事席、行事での席に配慮しています。また、利用者同士のコミュニケーションの支援を行ない、交流を深められるよう常に意識して取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養と併設している為、グループホームから移動になった場合は、継続して交流ができるよう支援しています。家族の方とお会いした時は、その後の様子を伺うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やゆっくり向き合える食事や入浴の時間に、要望や思い等を聞き取るようにしています。利用者の方から積極的に行きたい場所ややりたい事等の声が聞こえるようになってきており、要望に沿えるよう業務の調整を行なっています。自らの訴えが少ない方、意思疎通が困難な方については、本人の思いを見出せるよう、傾聴に努めたり、どのような支援が必要か、職員間で話し合いながら対応しています。	4ヵ月毎の目標に掲げている“出来ることを見極め、尊重し、日常生活に活かせる”よう利用者からよく話を聞き、好きなこと、やりたいことの把握に努めている。居室で一人でやっていた塗り絵や貼り絵をリビングに持ち出し、皆と一緒にやるようになり、意欲的になっている人がいる。また、周囲の動きを観察し、掃除や衣類たたみなど、自分のやることを自分で決めて手伝ってくれている人がおり、自宅に帰った時のために取り組んでいるという本人の思いを話から確認出来た。一人一人の思いや意向が一樣でないことを受け止め、個々の思いに沿った支援を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接、前担当のケアマネからの情報収集から始まり、面会や行事の際に、家族や親戚から話を聞くようにし、ホームでの生活や会話の中で役立つようにしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が出勤する都度、一対一での申し送りを行ない、利用者の様子を細かく把握できるよう努めています。その他生活記録、申し送りノートの活用、業務の中で随時情報を伝え合うよう努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは3ヶ月ごとに行なうモニタリングをもとに、6ヶ月ごとにサービス担当者会議を実施し、家族や関係職員とともにケアプランの見直しを行なっています。	利用者に担当制を敷いており、計画作成担当者を兼務する管理者は、3ヵ月毎に担当職員を中心に職員とモニタリングを行い、ケアプランが現状に合わなくなっていないか確認している。6ヵ月毎にサービス担当者会議を開催し、特養の医師・看護師の意見も参考にしながら、家族の新たな希望も入れ、ケアプランの変更、継続について協議するなど、必要な見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は具体的に記入し、全職員が把握できるよう取り組んでいます。早く周知したい内容は、申し送りノートを活用し「ヒヤリハット」や細かく観察してほしい点、家族との連絡事項等について記入するようにしています。			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況、要望に応じて可能な限り対応できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員による地域行事参加への支援を受けたり、傾聴ボランティアの方々との交流を継続しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医、本人や家族の希望による医療機関にて受診できるよう支援しています。	利用開始前からの歯科、皮膚科、眼科、精神科等のかかりつけ医には、家族に同伴対応をお願いしているが、職員の同行が増えている。協力医による月1回の訪問診療を受診している利用者もいる。また、毎週日曜日には、特養の看護師の協力により、バイタルチェックが行われるなど、適切に医療を受けられるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護師から協力を得て、毎日、朝と夕に利用者の状態を報告し、連携を図りながら対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医師の説明を聞き家族と話し合ったり、病院での様子を定期的に見に行き、状態を把握しながら、今後についての検討を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族への説明を行ない、確認を行なっています。また、利用者の状態が変わってきた場合にも再度話し合いを持つようにしています。	利用開始時に、本人、家族に対し、介助しても個浴が難しくなってきた場合、食事が取れなくなってきた場合等、状態低下が著しい際には、特養入所や入院の方向で相談しながら対応することを説明している。また、ホームとしては、医療連携の体制が整っていないことから、看取りは行わないことで了解を得ている。看取りの実績はないものの、特養で看取り経験のある職員を中心に、家族の相談に乗り、適切な助言を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の講習は定期的に受講しています。その他、医療研修を毎月の会議の中に取り入れ、看護師に資料を提供してもらい取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している特養と合同で、昼夜それぞれの火災を想定した避難訓練と、職員の非常招集訓練を年に2回ずつ実施しています。	年2回、併設の特養と合同で火災避難訓練を行っているが、今年の1回目は未実施である。夜間想定訓練のやり方や近隣への協力要請等の課題もあり、コロナ対策が落ち着いたら改めて検討することとしている。昨年の訓練では、消防署から、決められた流れの中で徐々に訓練しているとの講評があり、緊張感をもって取り組むようにしたいとしている。	特養の1ユニットとともに2階が生活の場になっており、ホームとしては、定例の避難訓練のみならず、リハビリも兼ねて、非常階段の使用も含め、避難経路を歩行するなど、独自の訓練を繰り返し実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に合わせ、対応方法を職員間で話し合いながら、配慮に心掛けた支援を行なっています。利用者への言葉遣い、介助の方法等で不快な思いを与えないよう気を付けています。	ホームのケア目標の一つに「利用者の自尊心と潜在能力を引き出す」を定めており、一人一人の出来ることや意向を尊重しながら対応の方法を職員間で共有し、役割や生きがいを見出してもらうよう支援している。居室は利用者のプライバシー空間と位置付け、職員の入室に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情、行動等から利用者の思いや要望を読み取ったり、引き出したりしながら、支援を行なっています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせてながら生活できるよう、声掛けや誘導を行ない、利用者のペースに配慮した支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り服を自分で選んでもらったり、起床時の整容、外出時のおしゃれは、それぞれの好みに合わせて支援しています。行きつけの美容院、使い続けている化粧品等がある方については、継続して使用できるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備、片付けを毎日分担して行っており、利用者の方から率先して参加していただいています。献立作成に、利用者の好みを取り入れながら、職員と一緒に食事を楽しんでいます。	献立は、夜勤者が翌週分を作成している。利用者のリクエストも入れながら、献立の中に10種類以上の食材を使うよう心掛けている。買い出しは職員が1日おきに行っているが、利用者の同行はない。早番が朝食、日勤者が昼食と夕食を準備する。近隣の差し入れ等がある時はメニューを変更するなど、柔軟に対応している。ミキサー食が1名いるが、職員も加わり長テーブルで向かい合いながら楽しく食事をしている。感染防止のため外食できないので、弁当を楽しむこともある。皆で役割分担をして、機能的な下準備、後片付けになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックし、状況を把握しています。摂取量が少ない時は、必要に応じて補食を準備したり、水分は一人一人の好みに合わせた物を随時提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、一部介助にて毎食後の口腔ケアを徹底して実施しています。ケア用品も個々の状態に合わせた物を工夫、検討して使用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握をし、排泄状況を見ながら常に職員間で声を掛け合い、トイレ誘導のタイミングを工夫しています。できるだけ失禁が軽減できるよう支援しています。	排泄自立者は3名で、他の利用者はリハビリパンツにパット使用である。ホーム利用後、リハビリパンツからパットのみで改善した人もいる。昼夜とも全員トイレで排泄しており、夜間は誘導が必要な2人を除き、自分で起きてトイレに立っている。失禁をなくすよう支援に力を入れている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防につながる食材、乳製品を毎日の食事に取り入れています。水分はできるだけ多く摂取してもらうよう、飲み物の工夫、飲むタイミングを考えながら支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に声を掛け、確認を取ってから誘導するようにしており、その日の体調や気分配慮した支援を行なっています。季節に合わせて、入浴を楽しむ週間を設定し、入浴剤、音楽、飾りなどを工夫し、変化をつけながら楽しんでいただいています。	入浴は週3回を基本としており、行事、通院、体調等により、午前でも、午後でも入浴出来るように対応している。全介助の2名を除き、職員は背中洗いや洗髪を手伝っている。季節に合わせて、造花や銭湯をイメージした絵を飾り、入浴剤で温泉気分を楽しんでもらうよう取り組んでいる。全介助の利用者は、時々、特養の機械浴を利用させてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣、状態に合わせて、それぞれの部屋、リビングの過ごしやすい場所で休息をとっていただき、落ち着て過ごせるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬局からの説明により、服薬時の注意点等を必ず確認するようにしています。服薬は複数の職員で確認し、服薬後の様子観察も十分行うよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事的な作業、個々の趣味活動、行事、外出、運動等の支援をし、毎日楽しく過ごしていただけるよう取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常会話の中から出てきた利用者の要望、思いつきから、外出支援を行ったり、家族とのドライブ、旅行も勧めています。イベント行事の情報を見て、要望があれば実現できるよう検討しています。	感染予防に配慮しながら、天気の良い日は、利用者の希望に合わせて、事業所近くの道路を20分程度散歩している。桜、あやめ、紫陽花など折々の花の名所を訪ねたり、ドライブで買い物や自宅付近に出掛けたりしているが、感染予防のため、出かける機会が減少している。新聞のチラシを示したり、通院帰りに行きたいところを希望したりする利用者もあり、出来るだけ要望に沿えるよう努めている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まえさわ苑折居館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談のうえ、現金を所持している方もいますが、実際に使う事は少なく、外出時等に要望があれば使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があった場合は、すぐ対応しています。年賀状を書く際の支援も行なっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような装飾を工夫したり、鉢植えや花、作品展示により楽しんでもらえるよう努めています。リビングはキッチンからの調理の音も聞こえ、生活の場として実感していただいています。また、照明、室温、音等への配慮に心掛けています。	リビングは、床暖房、エアコンの他、加湿器、扇風機により季節に合わせた適切な温度や空調の管理が行われている。長テーブルとソファが置かれ、利用者同士が向き合えるよう工夫し、季節に合わせた共同作品や鉢植え、生け花などが飾られている。大きな行事がある時は、1階の特養のホールを借りることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった食事席の他にソファで過ごしたり、ベランダでの日光浴をしながら会話を楽しんだりしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや椅子を持って来ていただき、使い慣れた物を置く事で、少しでも安心感を持っていただけるようにしています。	ベッド、洗面台、小ダンスなどが備え付けになっており、利用者は、ハンガーや衣装ケース、椅子等を持ち込み、家族写真や鉢植え、人形等で好みの部屋づくりを行っている。居室の入口に動物の写真付きの表示カードが貼られ、それぞれの個室らしさが出るよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋の表示を認識しやすいよう工夫したり、利用者が安全に過ごせるよう、道具、物の配置に配慮するようにしています。		